

令和2（2020）年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ミクロ経済学 (Microeconomics)					担当教員	鯉江 康正 (コイエ ヤスマサ)		
科目コード	371048-14120								
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	4	配当年次	1年次	開講期	前期2
科目特性	知識定着・確認型 AL / 資格対応科目								

① 授業のねらい・概要

本授業は、ミクロ経済学の基礎知識を学習することを目的とする。したがって、本授業は、職業人の経済に関する常識を身に着けるものである。ミクロ経済学は経済を家計や企業などの経済主体の観点から考え、経済主体に及ぼす影響について分析する学問である。価格決定のメカニズムを通じた経済現象について経済学の観点から把握し分析するための理論の習得を目標とする。また、ERE（経済学検定試験）を意識した内容で講義は進める。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う

③ 授業の進め方・指示事項

経済学は積み上げ式学問であるから、毎回の講義に対応した項目についてテキストを精読し、配布された練習問題を確実に行っていくこと。また、学修活動を確認するために、課題の提出を求める。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

特になし。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) ミクロ経済学の基礎知識を身につける。
- (ii) 様々な経済問題について自らの判断で考察する能力を養う。
- (iii)

⑥ テキスト（教科書）

N. グレゴリー・マンキュー（2019年）『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社（ISBN-978-4-492-31521-7）

⑦ 参考図書・指定図書

必要に応じて、レジュメを配布する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		10%			30%		100%
(i) ミクロ経済学の基礎知識を身につける。	40%		6%			20%		66%
(ii) 様々な経済問題について自らの判断で考察する能力を養う。	20%		4%			10%		34%
(iii)								
フィードバックの方法	課題は提出期限後の講義で解説する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
本学の学生の場合、数学が苦手な学生も多く数式ばかりでなく図表の読み取り等に関してかみ砕いた講義を進めていく。また、練習問題・課題を出すことによって、学生の理解度を高めていく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	経済学の十大原理①（人々はどのように意思決定するか）	テキスト	意思決定に関連する概念であるトレードオフ、機会費用、限界概念、誘因を理解する。	30分
2	経済学の十大原理②（人々はどのように影響しあうのか）	テキスト	取引のメリット、市場メカニズムの特徴、政府の役割を理解する。	60分
3	経済学の十大原理③（経済は全体としてどのように動いているか）	テキスト	生産能力と生活水準、貨幣供給量が及ぼす影響、インフレと失業のトレードオフを理解する。課題の提出。	90分
4	経済学者らしく考える①（科学者としての経済学者）	テキスト	科学的方法、仮定の役割、経済モデル（フロー循環図、生産可能性フロンティア）、ミクロ経済学とマクロ経済学の関係を理解する。	60分
5	経済学者らしく考える②（政策アドバイザーとしての経済学者）	テキスト	実証的分析と規範的分析、経済学者の役割を理解する。	60分
6	経済学者らしく考える③（なぜ経済学者の意見は一致しないのか）	テキスト	科学的判断、価値観の相違による意見の不一致を理解する。	60分

7	経済学者らしく考える④（グラフの用法）	テキスト	2変数のグラフ、座標系のなかの曲線、傾き、因果関係に関する考え方を理解する。課題の提出。	90分
8	相互依存と交易（貿易）からの利益①（交易によるメリットの可能性）	テキスト	生産可能性フロンティアを用いた、特化と交易のメリットを理解する。	60分
9	相互依存と交易（貿易）からの利益②（比較優位）	テキスト	絶対優位、比較優位、比較優位と交易の関係を理解する。課題の提出。	90分
10	市場における需要と供給の作用①（市場と競争）	テキスト	市場とは何か、競争とは何かを理解する。	60分
11	市場における需要と供給の作用②（需要）	テキスト	需要曲線、個人の需要と市場の需要、需要曲線のシフトについて理解する。	60分
12	市場における需要と供給の作用③（供給）	テキスト	供給曲線、個人の供給と市場の供給、供給曲線のシフトについて理解する。	60分
13	市場における需要と供給の作用④（需要と供給を組み合わせる）	テキスト	市場均衡、均衡の変化を分析する3段階アプローチを理解する。	60分
14	市場における需要と供給の作用⑤（価格はそのようにして資源を配分するか）	テキスト	均衡を変化させる要因による影響把握、資源を配分するシグナルである価格の役割を理解する。課題の提出。	90分
15	前期のとりまとめ	テキスト 前期の課題プリント	前期試験にむけて、ポイント整理と課題を中心とした復習をする。	120分
16	需要、供給、および政府の政策①（需要と供給の作用に関する復習）	テキスト	需要と供給の作用について理解を深める。	30分
17	需要、供給、および政府の政策②（価格規制）	テキスト	価格規制が市場の成果に及ぼす影響を理解する。	60分
18	需要、供給、および政府の政策③（税金）	テキスト	税金が市場の成果に及ぼす影響を理解する。課題の提出。	90分
19	弾力性	テキスト	需要と供給の価格弾力性を理解する。課題の提出。	90分
20	消費者、生産者、市場の効率性①（消費者余剰）	テキスト	支払許容額、需要曲線を用いた消費者余剰の測定方法、価格の変化による消費者余剰の変化を理解する	60分

21	消費者、生産者、市場の効率性 ②（生産者余剰）	テキスト	費用と受取許容額、供給曲線を用いた生産者余剰の測定方法、価格の変化による生産者余剰の変化を理解する。	60分
22	消費者、生産者、市場の効率性 ③（市場の効率性と市場の失敗）	テキスト	総余剰を用いた市場の効率性と市場の失敗の影響を理解する。課題の提出。	90分
23	税と効率・公平①（税と効率）	テキスト	死荷重、管理負担、限界税率と平均税率、一括税について理解する。	60分
24	税と効率・公平②（税と公平）	テキスト	応益原則、応能原則、税の帰着と税の公平について理解する。	60分
25	税と効率・公平③（効率と公平のトレードオフ）	テキスト	効率と公平のトレードオフについて理解する。課題の提出。	90分
26	外部性①（外部性と市場の非効率性）	テキスト	厚生経済学、負の外部性と正の外部性を理解する。	60分
27	外部性②（外部性に対する公共政策：指導・監督政策）	テキスト	指導・監督政策である規制の影響を理解する。	60分
28	外部性③（外部性に対する公共政策：市場重視政策）	テキスト	矯正税と補助の影響を理解する。	60分
29	外部性④（外部性に対する当事者間による解決法）	テキスト	売買可能な排出権取引の影響を理解する。課題の提出。	90分
30	後期のとりまとめ	テキスト 後期の課題プリント	後期試験にむけて、ポイント整理と課題を中心とした復習をする。	120分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。毎回の講義で質問感想シートを配布し、次の講義の最初にそれに対する解説を行い、学生の理解度を高めていく。また、練習問題等を通して、知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

前職の民間シンクタンクでは、「整備新幹線の経済効果分析」「道路整備の効果と評価に関する調査」「公共投資の九州地域経済に与えるインパクト分析」などの調査研究活動に従事してきた。また、「長岡市総合計画策定委員会」「長岡市都市計画マスタープラン策定委員会」「長岡版広域道路ビジョン懇談会」「長岡市住宅政策マスタープラン改定検討会議」「地域資源発信拠点整備検討委員会」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

シンクタンクにおける経験や審議会の委員の経験から、各テーマについて多くの具体例を説明できる。たとえば、「需要、供給、および政府の政策」ではその影響ばかりでなく、何を指した政策であるかの背景を考慮した説明や、「消費者、生産者、市場の効率性」では様々な施設整備がどのようにして評価できるかなどの事例を紹介できる。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は理論としてのミクロ経済学を、実社会の例と結びつけて理解できるような効果が期待できる。